

年頭のごあいさつ

横河電機健康保険組合
理事長 前村幸司



新年明けましておめでとうございます。

事業主ならびに被保険者の皆さまには、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、当健康保険組合の事業運営に格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、厚生労働省が発表した「平成27年度 医療費の動向」によると、概算医療費は、1.5兆円増加して過去最高の41.5兆円となり、13年連続で過去最高を更新しました。中でも、高齢者の医療費は、高齢化の進展や医療技術の高度化等により国民医療費の約6割を占めるまでに増加しています。

一方、平成27年度決算見込における健康保険組合全体の状況を見ると、保険料収入に占める高齢者医療に関わる国への支援金・納付金等の割合が50%を超える組合は267組合、全体の19%にも及びます。平成29年度からの後期高齢者支援金の全面総報酬割（現状の2/3総報酬割、1/3加入者数割から計算方法を変更）への移行もあり、高齢者医療制度への拠出金は、今後増え続けることは確実です。さらに、社会保障審議会では介護納付金の総報酬割も議論されており、今後介護保険料も増加する可能性があります。また、収支は、2年連続黒字となったものの、これは多くの健康保険組合が保険料率を引き上げたためで、決して健保財政が改善されたわけではありません。

そのような環境の中、当健康保険組合の納付金・支援金も平成28年度予算ベースで保険料収入の47.3%を占め、現役世代の医療給付を含めると91.7%にもなります。そのように非常に厳しい状況ではありますが、当健康保険組合では、特定健診・特定保健指導をはじめ、人間ドック、生活習慣病健診などの疾病予防事業やスポーツクラブ利用補助、チャレンジウォーキングなどの健康維持・増進事業への取り組みにも力を入れてきました。また「健康は自己管理が基本」というセルフメディケーションの考えの下に年2回家庭用常備薬の補助斡旋をするなど、さまざまな事業を展開し、加入者の皆さまの健康管理を支援すべく、積極的に事業を進めてまいりました。

今回のけんぽだよりでもご報告していますが、平成27年度の特定健診・特定保健指導では、特定健診受診率83.5%、特定保健指導実施率46.3%と共に前年度実績よりも向上しております。今年もこれまで以上に受診環境を整えてまいりますので、皆さまも積極的に受診されますようお願いいたします。

また、健康保険組合と事業主が協力して、皆さまの健診データ・レセプトデータを分析・活用することで皆さまの疾病予防、重症化予防、健康増進、ひいては医療費の抑制を目指す「データヘルス計画」も平成29年度は第1期の評価、さらには第2期の計画の年になります。当健康保険組合ではこのデータヘルス計画として、皆さまの健康に対する気づきを促し、生活習慣を見直すことを目的とした保健事業「メタボ予測分析」と「非メタボ（重症化予防）対策」を事業主と連携して実施してまいりました。対象者の方にはその方の生活習慣改善に向けた専門職の的確なアドバイスを記載した「アドバイスシート」を送付しますので、受け取られた方は、今一度ご自身の生活習慣を振り返って頂き、相談が必要な方につきましては、専門職の相談を受け付ける窓口を設けましたので遠慮なくご相談ください。そして、アドバイスを参考に改善に向けたアクションを取るようしてください。

これからも健康保険組合は皆さまの健康に関しまして積極的に支援をしていく所存でございますので、皆さまも健診は必ず受診するなど、積極的に健康の維持・増進に努めると共に、引き続き健康保険組合の事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆さま方とご家族の方々の益々のご健勝をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成29年 元旦

